

卒業時教育成果・実践能力(コンピテンシー)

大領域	中領域	小領域
プロフェッショナリズム	横浜市立大学の医学部学生は卒業までに、以下の能力を修得している。 医師をめざす者として、それにふさわしい倫理観や価値観をもち、法令を遵守できる。また、診療に参加して、患者・家族や診療チームのメンバーと良好かつ適切な関係を築くことができる。	
	対人関係	患者の年齢、性別、社会経済的地位、文化的背景、人種・民族、性的指向、精神性(スピリチュアリティ)、障害、その他の多様性に気を配り、適切に対応できる。 また、患者が十分にサポートされていない人々の場合には特別な配慮を示すことができる。 患者とその家族、指導者、医療スタッフ、同僚に敬意を表し、また、診療に関して責任感をもち信頼に足ることを示すことができる。 患者・家族と適切な距離(親密度・金品授受など)を保つことができる。 個人として自律しつつ、学習者として指導を受けることができる。
	習慣、服装、品位、礼儀	時間を厳守し、物事に真摯に対応して積極性や誠実性を示すことができる。 正確で判読できる文書を作成して期限内に提出できる。 医師をめざす者として、適切な服装、衛生観念、言葉遣い、態度、行動をとることができる。
	倫理	論文作成、研究実施、症例提示、レポート作成時に、著作権に配慮できる。 自分の知識・技能不足を認識し、必要な時に助けを求めることができる。 インフォームド・コンセントの取得に関与できる。 診療に関して自分の誤りに気づいた時に、指導者や同僚に報告することができる。 他人に対する不適切な行為(無礼や短気など)を反省し、周囲の助言に従って修正できる。
	法令、医師会・学会会議等の規範、機関規定	・各種法令、横浜市立大学を含めた諸機関の規定を遵守することができる。 個人情報の取扱いに注意できる。 利益相反について説明できる。
	医学知識	横浜市立大学の医学部学生は卒業までに、以下の能力を修得している。 科学的根拠に基づく医療(EBM)に関わる幅広い知識を修得して、それらを実践に応用することができる。
	医療を実行するための知識	人体の正常な構造と機能、発達と成長・加齢性変化、病因、疾病の臨床兆候に対処できる知識を修得し、保持することができる。 好奇心をもって、客観的な知識を習得し、治療に必要な臨床的・科学的推論を行うことができる。
	科学的根拠に基づく医療(EBM)	ガイドラインや論文などからの情報を活用できる。
	問題解決と診断	患者の臨床所見に基づいて、臨床実習目標に関連した問題を解決するための臨床検査や画像検査を選択し、その結果を解釈し説明できる。 臨床上の問題点から仮説を立て、優先付けされた鑑別診断を行ない、臨床上の問題点を解決するために、自らの臨床経験と科学的根拠を踏まえて、問題解決の手法や診断決定の方法を示すことができる。
	治療	患者の病態と検査結果に基づいて、適切な内科的および外科的治療方法(予防や根治的または姑息的治療など)を示すことができる。
医療の実践	横浜市立大学の医学部学生は卒業までに、以下の能力を修得している。 急性あるいは慢性の頻度の高い疾患において、診断および治療の基本的技能を理解し、修得することができる。	
	病歴収集と症例提示	系統的な方法で患者のケアに関連した情報を集め、病歴を取ることができる。 臨床実習の特定の学習項目(救急疾患、高齢者、小児など)に沿って、状況に関連した病歴を集めることができる。 必要な場合は、紹介医師や他の医師、家族、介護者などから病歴を得ることができる。 鑑別診断を重要なものから挙げ、医療情報と統合し、医療従事者へ伝えることができる。
	身体診察	十分に体系化された身体診察を論理的で順序良く、効率的に円滑に行うことができる。 身体所見の異常を認識し、それを更なる病歴聴取や検査につなげ、的確な鑑別診断を行うことができる。 様々な患者(高齢者、小児、精神疾患など)でも焦点を絞った身体診察から、鑑別診断を効率良く行うことができる。
	診療録	患者の診察所見や検査結果等を明瞭かつ簡潔に記載し、臨床推論を行い、適切に優先付けされたプロブレムリストを正確に記載できる。
	手技	医学生として修得すべき臨床手技や心肺蘇生等の緊急処置を実施できる。
	患者管理	患者の自己管理、行動変容を含む退院計画および個々の疾患管理・予防計画の立案ができる。
	医療安全	医療安全の基本概念を理解し、安全な医療を提供する意識、実践を身につけるとともに、医療安全管理の体制を理解できる 感染に対する標準的予防策(Standard precaution)に沿って行動し、清潔操作を行うことができる。
	対人関係とコミュニケーション技能	横浜市立大学の医学部学生は卒業までに、以下の能力を修得している。 患者やその家族と、また医療従事者との間で、他者を理解し、互いの立場を尊重した関係を構築し、コミュニケーションをとることができる。
	患者や家族に対するコミュニケーション	様々な背景や文化をもつ患者や患者家族と、誠実で支持的なコミュニケーションをとることができる。 診断や診療計画、繊細な問題(病名告知、退院計画、終末期問題など)について、診療チームの一員として、議論することができる。 (指導教官の指導のもと)患者の疾患認識や治療への懸念を理解し、治療計画を作成することができる。
	医療チームでのコミュニケーション	患者情報や診療情報を統合して、分かりやすく要約し、アセスメント・プランを提示することができる。

卒業時教育成果・実践能力(コンピテンシー)

		臨床現場で正確で適正な診療情報を提示し、診療に関わるチームと情報共有し、適切な医療へ進むことができる。 国内のみならず国外からの最新の医学情報を収集できる英語力を有することができる。
医療と社会	横浜市立大学の医学部学生は卒業までに、以下の能力を修得している。 医学、医療、健康に関する法律(法規)と社会制度、関係学術機関の規則等を理解し、それらに基づいた業務を通して社会に貢献する準備ができている。	
	保健や福祉の理解と提供	各種の保険制度などの医療制度を理解し、説明できる。 健康の維持や増進、診療などに携わる各種の医療専門職職種の業務活動を理解できる。 保健・医療・介護・福祉の制度等や疾病・健康問題に関連した生活問題の支援のための情報や社会資源(保健所、保健福祉センター、行政の相談窓口など)を選択できる。 多方面(家族、かかりつけ医、診療記録、地域の福祉担当者、保健所など)から、関連する情報(家・環境・周囲の助けなど)を的確に集め、診療に活用することができる。
生涯学習	横浜市立大学の医学部学生は卒業までに、以下の能力を修得している。 医学・医療及び関連の広い分野の科学的情報を評価し、論理的思考を行うことができる。	
	情報管理	医学に関する高水準の情報を効率的に入手することができる。 情報リテラシーを取得し維持することができる。 個人情報保護の在り方を理解し、遵守することができる。
	自己啓発と自己鍛錬	自己の知識と技能の限界を知り、それに対応するための学習目標や計画を設定し、行動できる。 自身に対するフィードバックに基づき省察し、自己改善を実現できる。
医学の進歩への貢献に向けた準備	横浜市立大学の医学部学生は卒業までに、以下の能力を修得している。 基礎、臨床、社会医学領域での未解決の医学的課題を認識し、科学的探究の意義を理解のうえ、その解決に向けて貢献する準備ができている。	
	未解決の医学的課題の認識	医学のさらなる発展や応用のためには、既存の知識や技術の習得のみならず、未解決の医学的課題の克服が必要であることを認識し示すことができる。
	科学的探求	医学研究における科学的探求の重要性を理解し、その基礎となる科学的理論や方法論を活用できる。 患者情報、遺伝子、幹細胞や動物などを用いた医学研究の倫理的事項を説明できる。 指導・監督のもとで、医学研究を行うことができる。